

日時：令和5年12月1日（金） 13：30～16：30

場所：釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室

釧路湿原自然再生協議会

第13回 地域づくり小委員会

（第39回 再生普及小委員会との合同小委員会）

議事要旨

■議事次第

○合同開催の経緯

~~~~~

<地域づくり小委員会>

○令和5年度 地域づくり小委員会取り組み状況報告

1) 地域づくり小委員会について

2) 委員事案

- ・国立公園ブランドプロミスについて
- ・ロングトレイル
- ・かわたび×うまたび
- ・釧路川トイレ設置
- ・インフラわくわくツアー

3) 小委員会事案

~~~~~

<再生普及小委員会>

1) 再生普及小委員会の活動報告

2) その他

~~~~~

○今後の合同開催に向けて

始めに合同開催の経緯についての説明を行い、各小委員会の議題について報告があった。

地域づくり小委員会については、令和5年度の地域づくり小委員会取組状況について委員事案、小委員会事案の順に報告があり、それぞれについて意見交換を実施した。

再生普及小委員会については、今年度の活動報告があり、それについて意見交換を実施した。

最後に今後の合同開催について説明を行い、意見交換を実施した。

## ■議事1)地域づくり小委員会について

## ■議事2)委員事案

### 環境省「国立公園ブランドプロミスについて」

#### <内容の概要>

環境省は、国立公園のブランディングを強化するため4つのブランドプロミスを定めた。地域・関係者が連携してブランドプロモスの実現に取り組む。

釧路湿原自然再生協議会の取組に関係があるブランディング活動としては、「自然・生活・文化・歴史を把握し、物語（ストーリー）を明らかにし、保護と利用の方針を定め、行動計画を作成します」、「自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生します」、「物語（ストーリー）に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コースをつくります」といったものがある。また「脱炭素化や地産地消などに取組み、持続可能な地域づくりに貢献します」といった活動方針も親和性があると考えている。

特に物語（ストーリー）という部分は釧路湿原も魅力的なものを持っており、それによる唯一無二の感動や体験が提供できるということをアピールしていきたい。

### 環境省「ロングトレイル」

#### <内容の概要>

ロングトレイルは、海外で有名なものが多くあり観光客の関心も集める。日本でもより魅力的なロングトレイルの整備を推進しており、海外にもアピールできるトレイルとして知床から釧路までの3つの国立公園とまちを結ぶ歩く旅の道「北海道東トレイル」の開通を目指している。トレイルが通過する自治体や国交省、林野庁、北海道と連携して進める取り組みである。このトレイルを使って、周辺のまちが観光等で活性化することも期待される。

(PR 動画の放映)

一方で、クマ対策や私有地・農地への立ち入り対策などは並行して行っていく必要がある。

#### <以上3件についての意見交換>

《委員》 (NPO 法人環境把握推進ネットワーク PEG 照井氏)

ロングトレイルの映像について、インバウンド向けの字幕版などは作成されるのか。

《環境省 末廣企画官》

現在準備中であり、準備でき次第、通常版と字幕版同時に配信予定である。

《委員》 (釧路川カヌーネットワーク 小川氏)

(ブランドプロミス、ロングトレイル双方の取組について) 自然保護のアピールもあった方がいいのではないかと。利用と併せて自然再生と保護の推進をどう行っていく予定なのか。

《環境省 末廣企画官》

まずトレイルに関しては、トレイル憲章を作ろうと考えている。また作成するホームページにも自然再生・保護について記載をしたいと思う。

トレイルを設定する上では、近隣の農家への外来種侵入がないよう対応を実施していく予定である。

《環境省 柳川企画官》

ブランドプロミスに関しては、ストーリーが価値になるという考え方で、自然環境保全が大前提である。

保全した上で適正な利用をするという考え方で、ブランディング活動⑤のとおり持続可能な地域づくりを行っていく。

《委員》 (新庄久志氏)

ロングトレイルについて、所管は環境省か。

また、ロングトレイルを設定することは、今後ハードあるいはソフト整備を進めていくための、ガイドラインという位置付けなのか。それとも呼びかけ的なものなのか。

《環境省 柳川企画官》

環境省が旗振り役となって実施しているもので、ロングトレイルの設定に基づいて道を整備したりするようなものではない。地域のトレイルをつなげて1つのブランドにするために設定するものとして考えている。トレイルを周辺の自治体やトレイル団体に協力してもらって盛り上げていくものとして考えている。

《委員》 (新庄久志氏)

発信ターゲットは国内外で、こんな利用ができますという指針のようなものと認識した。

《国土交通省 菅野所長》

ロングトレイルのコースとして川沿いを使ってもらえるのは(河川管理者として)とても嬉しいことである。開発局としても、ロングトレイルで利用されることを見据えて、国内外に恥ずかしくない整備または維持管理をしたい。

《委員》 (一般財団法人 釧路市住宅公社 鈴木氏)

(ロングトレイルのPR動画について)自然をたくさんアピールされていたが、トレイルのPRとして野生生物情報も入れてほしい。釧路湿原として独自のものがアピールできると思う。

《委員》 (新庄氏)

ロングトレイルが整備されることはとても嬉しいことである。自然、文化、歴史を体験しながら歩く遍路は日本各地にある。代表的なものは四国の八十八箇所参りがあるが、北海道にはそのような遍路がなく、今北海道で地域を全部体験できるトレイルは珍しいと思う。ぜひ基本方針的なものとして発信し、さらにこうしたロングトレイルが増えていくことを期待する。

《委員》 (釧路国際ウェットランドセンター 元岡氏)

長距離自然歩道との関係はどのようになっているのか。全国の自然歩道をロングトレイルにしていくのか。

《環境省 末廣企画官》

長距離自然歩道はまだ確定していない部分もある状態で、北海道東トレイルも今回長距離自然歩道を使っている部分が多くある。

最終的にはロングトレイルのルートで長距離自然歩道に位置付けていきたいと考えている。

《委員》（高橋氏）

長距離を歩くこと自体は一時期北海道でも盛り上がったことがある。その時もルート上の歴史、文化、産業を絡めて、1日道沿いをずっと歩いて“見るだけ”から、道の整備などに地域の活動に“参加してもらう”に変化していくことで地域を盛り上げていけたらという構想はあったが実現しなかった。今回はぜひそうした方向に持って行ってほしい。

《環境省 末廣企画官》

ロングトレイルを企画する中で、地域を見るようにしてはどうかといった意見も過去に頂いたが、上手いかなかった部分もあり今回は割り切ることにした。ロングトレイルを国道のようなものにして、道道、町道のようなトレイルができてくればこれを活用して地域で様々な取り組みを行うことができるのではないかと考えている。

一方で、そうした情報を1か所で集約して発信する管理運営組織も作ろうと考えている。

《委員》（高嶋氏）

こうした取り組みに関しては、全体統括、司令塔の役割がしっかりと働くようにしてほしい。始めの整備をする時はよくても、運用するうちに道路、階段などが補修されないことが多々ある。

《委員》（新庄氏）

本州の街道は今あるものを活用して、それとして成り立っている。

今回のロングトレイルも北海道の街道にあたるものだと思うが、これも今あるものを活用しており、とても良い取り組みだと思う。また距離も400km程度と、ハードルが高くなく歩けるいい距離だと思う。

### 標茶町 町おこし協力隊 伊藤さん、炭田さん「かわたび×うまたび(かわたびほっかいどう)」

#### <内容の概要>

標茶町では乗用馬を活用した観光に力を入れており、「道東ホースタウンプロジェクト」として河川空間を活用した本取組は2021年から開始し、3年目になる。来年から商品化を見据えた最終テストとして10/28、11/1にテストツアーを実施した。

テストツアー後、専門家へのヒアリングも実施し、

- ・ゆったりとしたホーストレッキングは、釧路湿原と合っている。
- ・利用目的を明確化する必要がある。

等の意見を受けた。

実際に参加した人の感想としては、肌寒い季節の釧路湿原で馬の温かさを感じながらトレッキングをするのはとても魅力的なツアーだった。

ツアー商品として生き物を扱うためイレギュラーな事態が予想されること、ガイドは馬に専念

する必要がありそれ以外に交通手段や食事の手配などをする人員が必要であることが他のツアーとは違った点であると考えられる。

### 北開水エコンサルタント「釧路川トイレ設置」

#### <内容の概要>

(株)北開水エコンサルタントでは、昨年度に引き続き、地域貢献の一環により試行的に仮設トイレを設置した。今年度は釧路カヌーネットワーク協会と共同でカヌーポート細岡駅に仮設トイレを設置した。また釧路川の維持管理を請け負っている開成建設工業(株)、辻谷建設(株)と共同で岩保木水門周辺に新たに仮設トイレを設置した。設置期間はカヌーポート細岡駅で6月1日～8月31日の3か月間、岩保木水門で7月14日～9月14日の2か月間設置した。

平日と休日の利用実態調査による利用状況は、カヌーポート細岡駅で推定12,500人の施設利用者に対して約24%の2,900人が、岩保木水門で推定1,100人の施設利用者に対して約25%の270人がトイレを利用し高い利用率となった。2022年のカヌーポート細岡駅での利用状況と比較し、日平均利用者は2022年25人に対し、2023年は32人となった。

利用者のモラルある利用により、河川環境・河川利用上問題が発生しなかった。2022年は(株)北開水エコンサルタントの地域貢献活動として始まった取り組みは、2023年は3者の協賛があり実施することができたが来年以降の動向は不透明であり、費用のあり方や労力を含め検討したいと考えている。

### 釧路開建 佐藤専門官「インフラわくわくツアー」

#### <内容の概要>

釧路川、釧路湿原周辺の二つの遺産、釧路川の歴史、湿原の保全と価値について学ぶ日帰りバスツアーを釧路開建、釧路観光コンベンションセンター、釧路市博物館の主催で実施した。このツアーは各地の開発局で実施されているインフラツアーの一つである。

参加者からは普段は入れない、通れない場所を見学できることが高評価で、特に釧路市博物館、簡易軌道跡、新釧路川右岸堤防道路、岩保木水門での見学の満足度が高かった。

### ■議事3)小委員会事案報告

#### <内容の概要>

以下の3件について報告した。

- ①農業事業者との連携継続
- ②自然再生事業箇所への利活用の推進
- ③カヌーガイドラインの見直し

#### <以上4件についての意見交換>

《委員》 (釧路川カヌーネットワーク協会 小川氏)

トイレ設置の取組に関して、協賛企業に深く感謝したい。カヌー等湿原の利活用をしていく上でトイレが一番大事な問題である。来年以降もできれば継続していただければと思う。

《北開水工コンサルタント 石黒主任技師》

確実にできるとは言えないが、来年も検討したい。

## ■再生普及小委員会

＜意見交換(地域づくり小委員会と関連する意見のみ抜粋)＞

《国土交通省 菅野所長》

再生普及小委員会の取組として、様々な方法で取り組みがされていることが今回よくわかった。地域づくり小委員会で報告されていたカヌー、ホーストレッキングなどは、再生普及小委員会と連携して、もう一步踏み込んだ湿原の知識を聞くことができれば、地域外の人にも湿原の話題を持って帰ってもらって、さらに釧路湿原の価値が向上するのではないかな。

《委員》 (新庄氏)

再生普及小委員会の取組ターゲットが限られてきていると感じる。ツーリズムに再生普及小委員会の取組を組み込めれば観光客から口コミで取組の情報を広めることができるのではないかな。地域づくり小委員会と連携することで、両者の課題解決につながると思う。

## ■今後の合同開催に向けて

《委員》 (八千代エンジニアリング(株) 坂井氏)

協議会の取組としては、30年先を見てやってきた。それを踏まえて、小委員会では報告だけではなく、何をしたらこうなったという成果を整理することも必要だと思う。例えば再生普及小委員会の取組への参加者に半年後、1年後にアンケートを実施し、参加による生活の変化があったかなどを整理した方がいいと思う。こうした取り組みを通じて釧路湿原の応援団になってもらうことが重要だからである。

《釧路開建 佐藤流域治水対策専門官》

釧路湿原自然再生の持続化のため指標を持った取組をしていきたいと思う。